

李穂枝『朝鮮の対日外交戦略 日清戦争前夜 1876－1893』（法政大学出版局、2016 年）

本の概要：

日朝修好条規締結（1876 年）から日清戦争直前（1893 年）まで、朝鮮の対日外交はどのように推移したのか。本書は、朝鮮が宗主国である清の影響力を戦略的に利用しながら日本に対して主体的外交を展開する様相を、日清戦争へ向かう過程に併せて考察する。日朝修好条規以降に朝鮮で起きた変化から、朝鮮側が提案した関税設定の経緯、1882 年に調印された朝米修好通商条約、さらに日朝間で起きた海底電線の問題、穀物の輸出を禁ずる防穀令をめぐる日本との対立など、対日外交を長い時間軸で追うことで、19 世紀後半の東アジアに影響を与えた朝鮮の戦略的な事大主義政策の中身を提示。（出版ニュース 2016 年 10 月より）

著者略歴：

1974 年韓国ソウル生まれ。2012 年東京大学総合文化研究科単位取得満期退学。学術博士。昭和女子大学、関東学院大学、東海大学非常勤講師。主要な業績は「防穀賠償交渉（1893 年）における日清韓関係」（『中国研究月報』第 63 巻第 6 号、2009 年）、「一八八五年の日朝海底電線条約続約締結交渉について」（『朝鮮学報』第 232 輯、2014 年）など。

〔関連 JRL〕<http://www.h-up.com/books/isbn978-4-588-60347-1.html>